

2014 年度 小委員会活動成果報告

(2015 年 2 月 19 日作成)

小委員会名	ライフスタイルと教育小委員会	主 査 名：高橋 達 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	地球環境委員会	委員長名：外岡 豊
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	2013 年度 建築の環境負荷低減を実現するための教育方法と実践事例を収集・体系化する。成果を学校教育や建築教育、生涯教育などにおける講師派遣や企画協力により広く教育現場に還元する。 2014 年度 住育の情報交換・講習のためのセミナーを開催する。	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有	
	斉藤雅也 (札幌市立大学)、篠節子 (篠計画工房)、宿谷昌則 (東京都市大学)、菅原正則 (宮城教育大学)、妹尾理子 (香川大学)、高柳有希 (㈱エコエナジーラボ)、田中稲子 (横浜国立大学)、谷口新 (大妻女子大学)、西川竜二 (秋田大学)、平石年弘 (明石工業高等専門学校)、廣瀬和徳 (㈱教育環境研究所)、村田昌樹 (OM ソーラー)、吉野泰子 (日本大学)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2014 年度予算	85,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> 各委員が協力関係にある教育現場において住育の実践と成果の社会還元を行っている。 照明に関する環境調整行動についてロジスティック回帰分析を行う場合、照度では同じ明るさをもたらす値の上下限に大きな開きがあるため、行動生起の確率分布導出はエアコンの場合と異なり困難であることがわかった。そのため、ベクトル照度比、前時刻との対数照度比などを応用する必要があることがわかった。教育法の体系化に必要な評価方法の知見が増した。 水俣市立緑東中学校の全校生徒 48 名と教師 5 名を対象に効果的な照明について理解するための体感・簡易測定学習プログラム実施し (10 月 10 日)、昨年度プログラムを体験したクラスも含めた全校での学習による行動変化について分析を行った。
委員会活動の問題点・課題	他団体 (子ども教育支援建築会議運営委員会など) との連携の可能性が高い環境になりつつあるが、地球環境配慮型住育実践のための専門家派遣体制につながる基礎がまだ確立には至っていない。そのため次年度大会関連行事を企画している。

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。